

第 1 回 WG2, WG3 合同委員会議事要録

日 時：平成 24 年 8 月 20 日（月）13:30～17:00

場 所：太平洋セメント(株)本社 8 階 W 会議室

出席者：[敬称略]

（委 員）中村秀明、大久保孝昭、荒金直樹、上田洋、江里口玲、草野昌夫、杉山央、
角倉英明、田沼毅彦、西田朗、渡邊悟士

（事 務 局）川上明大

資料：

- | | |
|-----------|-------------------------|
| 合同 No.1-1 | 第 1 回全体委員会議事要録 |
| 合同 No.1-2 | 委員名簿 |
| 合同 No.1-3 | WG 所属一覧 |
| 合同 No.1-4 | データ処理の参考図書概要 |
| 合同 No.1-5 | RF タグのコンクリートへの適用性に関する検討 |
| 合同 No.1-6 | 電脳コンクリート・その後 |
| 合同 No.1-7 | WG3 活動内容について |
| 合同 No.1-8 | 文献検索結果一覧 |
| 合同 No.1-9 | 平成 24 年度の今後の委員会予定について |

1. 第 1 回全体委員会議事録の確認

- ・議事録案をもとに第 1 回全体委員会での検討事項が、確認された。

2. WG2 の活動について

- ・WG 主査より、WG2 の活動内容の説明があった。
- ・個々のコンクリートを識別する技術を幅広く検討したい。
- ・①位置座標を対応させる（GPS）、②印をつける（標識法）、③個体毎の特徴を抽出する（生体認証）などの方法に分類して検討をすすめる。
- ・GPS の利用技術は、JAXA や SPAC が中心に利用推進活動を行っているが、本委員会でも利用の可能性を検討したい。
- ・現在の GPS は、準天頂衛星システムにより飛躍的に測位精度が向上している。測定位置を特定することで、構造物に使用されたコンクリートの判別がピンポイントで把握できる。
- ・アジテータ車やポンプ車の筒先に GPS センサーを設置すれば、コンクリートの打設箇所

を特定でき、施工管理にも利用できる。

・利用実証で、コンクリートのトレーサビリティに活用できるよう検討したい。後日、関連 URL を委員にメールで配信する。

⇒移動する物については、IC タグのような物理的に判別できるものの方が良いのではないかな。

⇒IC タグと GPS の両方の技術を使って、お互いの情報を補完しあえば良い。システムとして両方をうまく利用する方法を検討したい。

・(資料：合同 No.1-4)

・本委員会の目的遂行にあたってデータの取り扱いが重要となる。最近注目され始めたビッグデータについて、そのノウハウが参考になるとのことから、概要が紹介された。

⇒本委員会では、どのように運用できるか。

⇒データの入力側に、生コン会社やゼネコンなどが考えられる。これらの有効なデータを抽出して、データベースをつくり、そこからデータ利用者として施主や顧客、施設利用者などを想定して、必要なデータだけを取り出し活用することが考えられる。これは、要素技術のひとつであるので、全体のシステムと一緒に検討を進める必要がある。

・(資料：合同 No.1-5、No.1-6)

・IC タグを利用した文献と対外発表した資料である。定礎や銘板に IC タグを埋め込み構造物のトレーサビリティに活用するシステムを提案しているが、普及が課題である。

⇒現在は、ゼネコン各社が電子データを保存してメンテナンスできるようにしているので、必要性を感じていないのではないかな。また、マンションの館銘板から情報を勝手に取り出され、悪用されるのを心配しているのでは。

⇒電子データがなくて困っているのは、15 年以上前の物件がほとんどで、30 年を超えると設計図書が全くない場合もある。しかし、最近の物件で、10~20 年後に、設計図書などの電子データが失われる事を心配しているひとが少ないからではないかな。

⇒トレーサビリティの必要性を訴える方法を考える。IC タグを使うことでコストアップするが、各関係機関のメリットを見出し、活用を促すインセンティブを考える必要がある。

3. WG3 の活動について

・(資料：合同 No.1-7) WG 主査より、WG3 の活動内容の説明があった。

・情報の保管の目的やメリットを明確にし、ここでの議論内容を技術の普及に活用できるようにしたい。

・項目別整理方法に示す 1~4 については、過去に検討が行われているので、参考となる。

- ・(資料：合同 No.1-8)
- ・コンクリートとトレーサビリティをキーワードで文献と成立特許を検索した結果である。
- ・公開特許について以前調査したものもあるので、こちらは WG1 で提出する予定。

4. その他

- ・(資料：合同 No.1-9) 委員会の回数が少ないので、早めに担当部分を決めて検討に取り掛かりたい。次回 WG には、各委員が担当部分の資料を持ち寄って議論を進めたい。
- ・WG2 および WG3 の作業分担をそれぞれの WG 主査が決定し、WG に伝えることとする。

以上